

授業科目 筋骨格系理学療法

【担当教員名】		対象学年	2	対象学科	理学
亀尾 徹、佐藤 成登志		開講時期	後期	必修選択	必修
		単位数	4	時間数	90
【ディプロマポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	◎	○	○	◎	
【概要・一般目標：GI0】					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 筋骨格系理学療法に関するクリニカルリズニングについて修得する。 2. 筋骨格系理学療法の評価と治療の流れを学習する。 3. 筋骨格系理学療法における基本的治療技術を演習する。 4. 筋骨格系理学療法におけるモーターコントロールについて演習する。 					
【学習目標・行動目標：SBO】					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療面接で得られた情報から、身体機能評価を計画することができる。 2. 評価から得られた情報を解釈し、原因組織や関連因子などについて妥当な仮説を導き出すことができる。 3. 仮説演繹の手法を用いて基本的な治療を計画することができる。 4. 治療手技を説明し、実践することができる。 					
回数	授業計画・学習の主題	SBO番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員		
1	主観的評価（医療面接）概要と身体機能評価の計画	1-3	講義		
2-3	身体機能評価の概要（1）-（2）	1-3	講義		
4	筋骨格系理学療法における各種治療概念	1-4	講義		
5-6	関節運動学（1）-（2）	1-4	講義		
7-8	軟部組織へのアプローチ（1）-（2）	1-4	講義		
9-10	運動器疾患に対するモーターコントロール（1）-（2）	1-4	講義		
11-12	運動器疾患における神経系へのアプローチ（1）-（2）	1-4	講義		
13-14	スポーツ障害に対するアプローチ（1）-（2）	1-4	講義		
15	まとめ	1-4	講義		
16-17	骨ランドマークの触診（1）-（2）	1-4	演習		
18-19	軟部組織の触診（1）-（2）	1-4	演習		
20-21	末梢神経の触診（上肢）-（下肢）	1-4	演習		
22-23	自動運動テスト（1）-（2）	1-4	演習		
24-25	生理的他動運動（上肢1）-（上肢2）	1-4	演習		
26-27	生理的他動運動（下肢1）-（下肢2）	1-4	演習		
28-29	他動的副運動（1）-（2）	1-4	演習		
30	脊柱の触診（頰椎）	1-4	演習		
31	脊柱の触診（胸椎・腰椎）	1-4	演習		
32	脊柱の自動運動テスト	1-4	演習		
33	脊柱の生理的他動運動	1-4	演習		
34-35	脊柱の他動的副運動（1）-（2）	1-4	演習		
36-37	筋膜リリース（1）-（2）	1-4	演習		
38-39	ロールプレー演習1-2：医療面接の情報から	1-4	演習		
40-41	ロールプレー演習3-4：身体機能検査の計画	1-4	演習		
42-43	ロールプレー演習5-6：身体機能検査の結果から	1-4	演習		
44	ロールプレー演習7：治療計画	1-4	演習		
45	ロールプレー演習8：治療計画・治療・再評価	1-4	演習		
【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>	
教科書 (必ず購入する書籍)	マニュアルセラピーに対するク	Mark Jones、監訳：亀尾徹	協同医書出版社	2010・10,000円＋税	
参考書	運動器リハビリテーションの機能評価2	David Magee、陶山哲夫他監訳	エルゼビアジャパン	2006・10,000円＋税	
その他の資料	配付資料				
【評価方法】		【履修上の留意点】			
授業出席、授業態度、期末試験、実習態度、実技試験		演習時に直接身体部位が観察可能なように、短パン、ノースリーブシャツなどを着用の上、ジャージなどの動きやすい服装で参加してください。			